【別添１】

令和５年度　特別の教育課程の実施状況について【自己評価】

埼玉県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
戸田市立芦原小学校	戸田市教育委員会	公立

１．特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

本市では、これまで小学校第３・４学年において「総合的な学習の時間」を年間３５時間削減し、「外国語（英語）活動」を実施してきた。また、第１・２学年でも「外国語（英語）活動」を学校教育法施行規則第５１条に定められる授業時数以外で年間２０時間程度実施し、成果を上げてきた。さらに、これまでの取組を発展させて、以下の内容で取り組んだ。

① 小学校第３・４学年において、現行の３５時間実施している外国語（英語）活動に、総合的な学習の時間を年間３５時間削減し、３５時間を加えた外国語（英語）活動を実施する。

② 本市の研究組織である戸田市英語教育研究推進委員会は、①の時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

（２）学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「世界で活躍できるとだっ子の育成」を目指し、英語活動をとおして、グローバル力と異文化力を育成する。

① 小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる、小・中学校英語教育の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。

② 中学生海外体験派遣事業（主催 戸田市国際交流協会）等、国際交流事業への参加促進や、異文化を受容したり異なる文化をもつ人々と共生したりする意識の醸成。

（３）特例の適用開始日

平成１５年４月１日　特例の適用開始
平成２１年４月１日　変更
令和　２年４月１日　変更

（４）取組の期間

令和１２年３月３１日まで

２．特別の教育課程の実施状況

・小学校３・４年生において「総合的な学習の時間」を年間３５時間削減し、その時間を外国語（英語）活動として実施した。
（週１回の４５分授業と週３回の１５分モジュール授業）
・４５分授業とモジュール授業がつながる単元構成を工夫した。
・４５分授業ではＡＬＴと連携し、「ふれる・なれる・親しむ」という流れでコミュニケーションに慣れ親しませながら、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成した。
・学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善が進むよう、戸田市英語教育推進委員会が開発した「英語教育指導用ルーブリック」を活用した。
・戸田市英語教育推進委員会が開発した CAN・DO リスト改訂版を活用しながら学習到達目標を児童が達成できるよう支援した。

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況
・ホームページやFacebook等を活用して英語活動の様子を積極的に情報発信した。
・学校公開では外国語活動や外国語科の授業参観を公開した。
・保護者会や学校運営協議会でも英語教育の取組を紹介した。

３．　実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は「世界で活躍できるとだっ子の育成」を目指し、小中一貫の英語教育を通して、グローバル力と異文化力を育成するため、コミュニケーション教育を推進するものである。

本校の英語活動について、令和５年度の学校関係者評価を行ったところ、５項目中、次の４項目に於いて「思う」(「よく思う」と「そう思う」の合計）が100%に達していた。

「（１）本校は積極的に英語活動を推進している」、
「（２）本校の児童は、英語活動の授業に意欲的に取り組んでいる」、
「（３）英語活動の取組は、本校の目指す児童の育成に寄与している」、
「（５）本校の英語活動は、児童のコミュニケーション能力の育成に役立っている」

しかし、次の項目（４）については「思う」の達成率は７５％であった。

「（４）本校は、ALTを十分活用し、異文化理解を推進している」

このことについては課題として捉えている。

続いて、令和５年度の３・４年生の保護者を対象にアンケートをとったところ、次のような結果になった。※（　）内は令和４年度のデータ。

	項　目	よく思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない	**「思う」の合計**
1	本校は積極的に英語活動を推進している。	32.1 (13.6)	53.6 (66.1)	14.3 (18.6)	0 (1.7)	**85.7** (79.7)
2	お子様は、学校の英語活動の様子について話したりしている。	7.1 (8.5)	50 (30.5)	35.7 (47.5)	7.1 (13.6)	**57.1** (39)
3	お子様は、御家庭で時々英語を使って話そうとしている。	3.6 (3.4)	46.4 (35.6)	32.1 (42.4)	17.9 (18.6)	**50.0** **(39)**
4	お子様は、日本や外国の文化に興味・関心を示している。	7.1 (11.9)	50 (40.7)	39.3 (37.3)	3.6 (10.2)	**57.1** (52.6)
5	本校の英語活動は、お子様のコミュニケーション能力の育成に役立っている。	7.1 (8.5)	64.3 (44.1)	25 (44.1)	3.6 (3.4)	**71.4** (52.6)

〇上記項目１の「思う」の合計は約８０％と高く、本校の英語活動の推進状況に対する保護者の理解を概ね得られていると考えることができる。

〇（　）内昨年度との比較で、「思う」の合計が、５項目すべて上昇していることはよい。特に項目５については２０％近く向上しており、コミュニケーション能力の育成に役立っているという意識の強さが見られた。

▼上記項目 2、3、4 は「思う」の合計が５０～６０%程度で、各家庭で英語活動の話が話題に挙がるような、英語を日常生活で活用することについては課題といえる。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校ではＡＬＴが常駐配置されているため、児童は授業以外でもネイティブ・スピーカーの本物の英語を体感し、実生活に近い状況での英語によるコミュニケーションを経験したり、異文化にふれたりしている。そのため自然と他国を尊重する心を育めている。

また、学年末に実施したＡＬＴとのスピーキング実態調査では、問いかけに対して無反応の児童がほぼおらず、積極的にコミュニケーションを図れていた。英語活動で慣れ親しんだ語彙や表現を活用して、自己開示・自己発揮できる児童が増えている。

４．課題の改善のための取組の方向性

学校関係者評価で見られた結果として「（４）本校は、ALT を十分活用し、異文化理解を推進している」ことについて課題として挙げられる。ALT の活用に関することと、異文化理解の推進に関わる２つの要素があるため、まずは、これらについて課題となる要因は何かを探っていくことが必要である。その後に課題の解決方法について考えていきたい。

また、保護者へのアンケートの中に、「英語がわかっている子とわかっていない子の差」について広がりがあるという記述があった。このような理解の差についても着目しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、今後も学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価を進めていくことが重要だと考えている。戸田市英語教育推進委員会で作成した「ハンドブック」や「ブックレット」を最大限活用しながら、グローバル力と異文化を育成するコミュニケーション教育を推進して行きたい。